

車いす SIG 講習会 in 厚木に参加して

浅井 朋美

神奈川県総合リハビリテーションセンター 理学療法科

1. はじめに

2023年11月18日～19日に対面とオンラインのハイブリット形式で開催された第51回車いすSIG講習会「子どもの車椅子編」へ参加した。当日は参加者45名（オンライン11名）で、リハビリエンジニアだけでなく、理学療法士、作業療法士、企業スタッフ等も参加しており、成人とは異なる視点が必要となる小児の車椅子作製について学ぶ機会となった。また、昼休みには企業展示も行われ、その様子もライブ配信されていた。子どもの車椅子だけでなく、マットレスや介護用品の展示もあり、実際の現場では多くの方が試乗などを行い活気あふれていた。

今回の講習会の内容は、評価に基づいたシーティングの考え方や、事例紹介、市販のベビーカーに対する工夫、電動車椅子の導入についてなど多岐にわたる内容であり、多くの知識を得ることができた。その中でも筆者が新たな知見を得ることができた評価

方法について紹介する。

2. 体幹コントロールの評価について

車椅子作製やシーティングを行う際に体幹のコントロール評価や座位保持能力評価が必要となる。小児のリハビリテーションにおいての座位の評価は、GMFM (Gross Motor Function Measure) や PEDI (Pediatric Evaluation of Disability Inventory) が一般的であるが、「できるか」「できないか」の判断であり、バランス能力の評価を示しているものではない。また、体幹評価はFACT (Functional Assessment for Control of Trunk) や TCT (Trunk Control Test) があるが、体幹を分節的に評価しているものではない。そのため、筆者のように小児の車椅子作製において経験の浅いセラピストは評価の段階から難渋する場面も多いと感じている。

3. SATCo (Segmental Assessment of Trunk Control) について

今回の講習会では、体幹機能評価としてイギリスの Penelope Butler らによって確立された SATCo の紹介と、SATCo のレベル別によるシーティングの戦略について講義がされた。SATCo は、骨盤サポート付きの評価用ベンチを用いて検者は2名にて、1名は高さを変えながら徒手的に体幹サポートを行い、もう1名は静的座位、動的座位、反応性座位に分けて体幹コントロールを評価すると共に摂動を加える役割を担う評価法である。身体分節は①肩甲帯②腋窩③肩甲骨下④肋骨弓下部⑤肋骨弓直下⑥骨盤⑦支持なしであり、「レベル1」の肩甲帯・上肢のサポートから「レベル7」のサポートなしで段階付を行う。SATCo で定めら



図1 講習会の様子

神奈川県総合リハビリテーションセンター 理学療法科
〒243-0121 神奈川県厚木市七沢 516

れているサポート高位はレベル1までだが、講義の中ではレベル1でも頭部のコントロールが困難な子供に対しては「レベル1で支持できない」として説明があった。正常発達児だけでなく脳性麻痺児や小児脊髄損傷児、ドゥシャンヌ型筋ジストロフィー症児、ダウン症児にも有用な評価として報告されている評価法とのことであった。

筆者は以前に SATOC₀ の評価ではレベル1に値する、重度四肢麻痺の児を担当し車椅子作製を行った際に、頭部のコントロールと安全の確保に難渋した経験がある。このような症例の場合 SATOC₀ を用いて評価することで、体幹のどのレベルまで支持が必要であるのか、体節のどの部分に固定を用いることで残存機能が最大限発揮できるのか評価することができたのではないかと考えた。さらに講習会ではレベルごとの活動のためのシーティング

の戦略の説明もあり、レベル1の場合は、頭頸部の活動性を発揮させるために肩甲帯を固定する方法として胸骨を前方から抑えるようベルトを着用することのアイデアを得ることができた。今回の講習会を通して新たな体幹コントロールの評価方法や、座位の能力レベルによって必要なシーティングを具体的に学ぶことができたと感じる。

4. まとめ

今回の講習会では、小児の車椅子作製においての評価方法や、評価の視点を学ぶことができた。また、事例紹介が多くあったことから、得られた知識と臨床場面をリンクしやすく理解を深めることができた。今回の講習会で得たことを今後の臨床に生かしていきたいと考える。